

## Ⅱ. 第 13 回地域消費動向調査結果

### 1. 調査実施概要

#### (1) 調査対象者

甲府市に住民登録をしている概ね 20 歳代から 60 歳代までの年代別構成比を基に、3,300 人を無作為に抽出して対象者とした。

#### (2) 調査実施方法

①対象者全員宛に令和 3 年 7 月 30 日郵送方式で配布した。

②アンケートの回収方法としては以下の 2 通りとした。

a. アンケート票記入後返信用封筒で郵送回答方式

b. インターネット回答方式（対象者が甲府市ホームページ上の回答ページにアクセスして回答する方式）

③回収締切日等について

a. 郵送回答方式の最終締切日は令和 3 年 9 月 14 日分までとした。

b. インターネット回答方式については、令和 3 年 7 月 19 日にホームページにアンケート票を公開し、同年 8 月 31 日まで回答した分を集計対象とした。

#### (3) 回収票

合計回答数 1,334 票（回収率 40.4%）

（内訳）

①郵送回答方式 666 票

②インターネット回答方式 668 票

#### (4) 年代別統計情報と回収サンプルの構成比比較にみる調査結果の傾向

回収サンプルが市の年代別人口構成比より上回っている年代としては、60 歳代が 3.5 ポイントと最も高く、以下 50 歳代（2.6 ポイント高）、40 歳代（0.6 ポイント）の順で、反対に 20 歳代は 4.3 ポイント下回っており、30 歳代も 2.8 ポイント低くなっている。

この結果、40～60 歳代が全回答者の 72.7% を占め、甲府市の人口構成の同年代合計 66.0% より高い傾向がみられた。

なお、平成 29 年に実施した前回調査との比較では、20 歳代（1.8 ポイント増）、40 歳代（3.7 ポイント増）、50 歳代（2.6 ポイント増）が前回より回答比率としては高く、30 歳代（2.8 ポイント減）、60 歳代（5.6 ポイント減）は低かった。

■地域消費動向調査回収結果

図表 2-1-1

単位：人、%

	市人口 (R3)	構成比	今回 (R3年) 調査		前回 (H29年) 調査	
			回答数	構成比	回答数	構成比
20歳代	18,690	16.6	164	12.3	159	10.5
30歳代	19,591	17.4	195	14.6	262	17.4
40歳代	26,280	23.3	319	23.9	305	20.2
50歳代	25,555	22.7	337	25.3	343	22.7
60歳代	22,492	20.0	313	23.5	439	29.1
無回答	-	-	6	0.4	2	0.1
合計	112,608	100.0	1,334	100.0	1,510	100.0

資料：甲府市統計情報（R3年1月1日現在）

## 2. 調査結果

（注．以下すべての項目における年代別、男女別等のグラフについては無回答を除いているため、全体集計結果の構成比率の数値とは相違している）

### 1. 回答者属性

#### (1) 年代

前述のように回答者の年齢は、50歳代が25.3%と1/4強を占めて最も多く、これに60歳代を合わせた50～60歳代が全体の48.8%と半数地区を占めている。なお、前回調査においても50～60歳代が合計51.8%と半数以上を占めている。

#### (2) 男女別

「男性」の回答者割合が42.0%で、「女性」は57.3%と女性の方が多い。

なお、令和3年1月1日現在の甲府市「住民基本台帳」による男女

比は、男性48.4%、女性51.6%となっており、これと比較すると今回の調査結果は男性が6.4ポイント下回り（反対に女性が上回り）、女性の回答が多少多く反映されているといえる。

前回調査との比較では男性、女性とも前回より0.2ポイント下回っている。

図表 2-2-1

単位：人、%

性別	今回 (R3年) 調査		前回 (H29年) 調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
男性	560	42.0	637	42.2
女性	765	57.3	868	57.5
無回答	9	0.7	5	0.3
合計	1,334	100	1,510	100.0

### (3) 家族構成の人数

2人の家族が28.0%を占めて最も多く、以下4人(24.7%)、3人(22.0%)、本人のみ(13.6%)、5人以上(11.1%)の順であった。

これを前回調査結果と比較すると、4人家族が2.4ポイント前回より増加し、このほか本人のみも2.0ポイント増えている。

一方で、3人家族が前回より2.0ポイント減少し、5人以上(1.7ポイント減)、2人(0.5ポイント減)も回答率は低下している。

ちなみに、令和3年1月1日現在の甲府市「住民基本台帳」の一世帯当たり人数は2.0人で、これと比べると回答者の家族人数は3人以上が合計57.8%を占めており、実態より若干多いといえる。

図表 2-2-2

単位：人、%

家族構成	今回 (R3年) 調査		前回 (H29年) 調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
本人のみ	182	13.6	175	11.6
2人	373	28.0	431	28.5
3人	293	22.0	362	24.0
4人	329	24.7	337	22.3
5人以上	148	11.1	193	12.8
無回答	9	0.7	12	0.8
合計	1,334	100	1,510	100.0

### (4) 職業

回答者の職業をみると、「会社員」が53.5%と半数を占め、次いで「公務員」が15.1%、以下「自営業」(11.3%)、「サービス業」(4.0%)などの順であった。(注。「その他」は、会社役員・団体職員各5人、パート・介護職員各4人などであった)

これを前回調査結果と比較すると、「会社員」が16.9ポイントと大幅に増加したほか、「公務員」(4.8ポイント増)、「自営業」(2.8ポイント増)などが増加し、反対に、「主婦」が11.7ポイント減、無職も5.5ポイント減等となっている。

図表 2-2-3

単位：人、%

職業	今回 (R3年) 調査		前回 (H29年) 調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
会社員	714	53.5	552	36.6
公務員	201	15.1	155	10.3
自営業	151	11.3	128	8.5
サービス業	54	4.0	68	4.5
農林業	0	0.0	11	0.7
主婦	33	2.5	214	14.2
学生	1	0.1	20	1.3
無職	7	0.5	91	6.0
その他	93	7.0	147	9.7
無回答	80	6.0	124	8.2
合計	1,334	100	1,510	100.0

## 2. 現在の生活状況

### (1) 現在の暮らし向きへの満足度について

本調査実施時はコロナ禍にあったが、現在の暮らし向きとしては「まあ満足している」が47.4%と半数近くを占め、次いで「どちらとも言えない」(21.2%)、「満足している」(16.7%)、「どちらかといえば不満である」(7.9%)、「不満である」(5.6%)の回答順であった。

前回調査と比較すると、「満足」・「まあ満足」合計64.1%で前回(64.0%)より多少増加し、反対に「不満である」・「どちらかというとな不満」合計は前回は15.1%で今回(13.5%)の方が減少している。

これを年代別で見ると、20歳代、30歳代において「満足」・「やや満足」の回答比率が高く、50歳代は「不満」・「どちらかというとな不満」とする回答が多い傾向がみられた。

また男女別では、女性の方が「満足」・「まあ満足」とする回答比率が高かった。

なお、「どちらかというとな不満」・「不満」180人の理由としては、「収入が減った」が54人で最も多く、「コロナの影響で仕事がストップや外出できない」などコロナ関連の回答も17人あった。

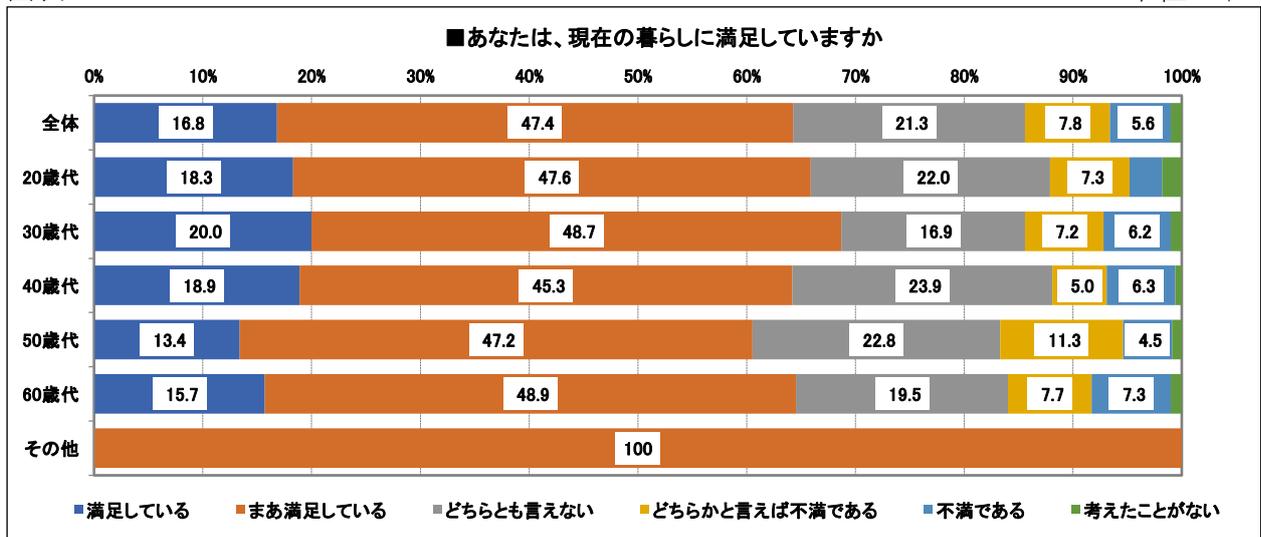
図表 2-2-4

単位：人、%

現在の暮らしの満足度	今回 (R3年) 調査		前回 (H29年) 調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
満足している	223	16.7	244	16.2
まあ満足している	632	47.4	722	47.8
どちらとも言えない	283	21.2	290	19.2
どちらかといえば不満である	105	7.9	128	8.5
不満である	75	5.6	100	6.6
考えたことがない	13	1.0	21	1.4
無回答	3	0.2	5	0.3
合計	1,334	100.0	1,510	100.0

図表 2-2-5

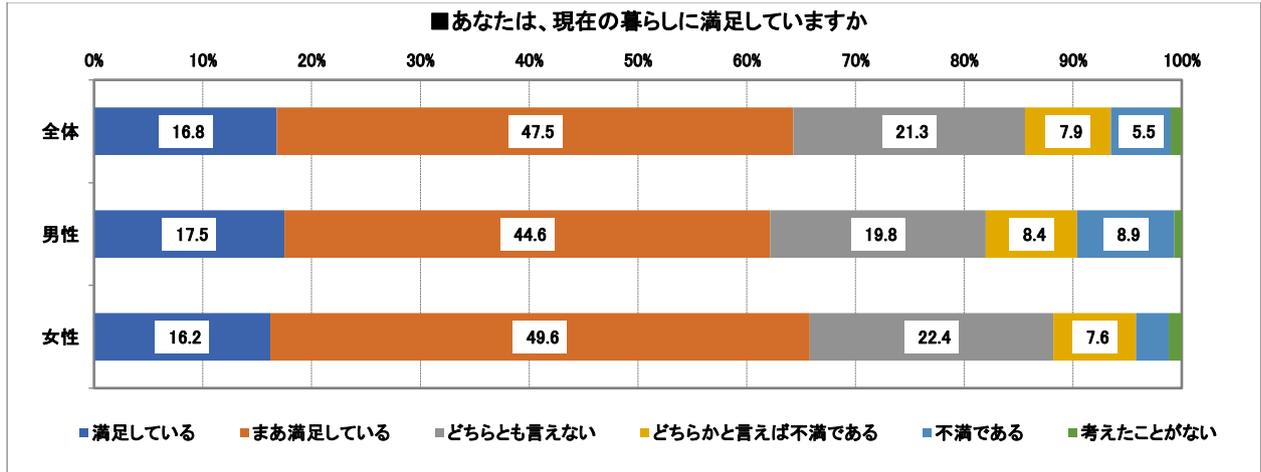
単位：%



注. 「その他」は不明回答である。また無回答分を除いている

図表 2-2-6

単位：％



注. 無回答分を除いている

(2) 2, 3年前と比べた現在の暮らし向き

2, 3年前と比較しての暮らしの状況は、「変わらない」が48.5%と半数近くを占めて最も多く、次いで「どちらかといえば悪くなった」(19.0%)、「どちらかといえば良くなった」(14.8%)、「悪くなった」(10.6%)の順であった。

これを「良くなった」・「どちらかといえば良くなった」合計を好転派とすると、21.4%で約5人に1人の割合であり、反対に「悪くなった」・「どちらかといえば悪くなった」合計の悪化派は29.6%であった。

前回調査との比較では、「良くなった」・「どちらかといえば良くなった」合計の好転派は1.6ポイント増加、反対に「悪くなった」・「どちらかといえば悪くなった」合計の悪化派も1.2ポイント増加するなど、好転と悪化がそれぞれ増えている2極化がみられた。

図表 2-2-7

単位：人、％

2, 3年前と比較した暮らし向き	今回 (R3年) 調査		前回 (H29年) 調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
良くなった	88	6.6	106	7.0
どちらかといえば良くなった	197	14.8	193	12.8
悪くなった	141	10.6	144	9.5
どちらかといえば悪くなった	254	19.0	286	18.9
変わらない	647	48.5	776	51.5
無回答	7	0.5	5	0.3
合計	1,334	100	1,510	100.0

ちなみに、良くなった・どちらかといえば良くなった理由としては、「収入の増加」が回答者のうちの79人と最も多く、以下「子どもが増えた(家族が増えた)」(16人)、「子どもへの出費が減った」(10人)などであった。反対に悪くなった理由は「収入の減少・不安定」(98人)、「物価の上昇、価格高騰」(60人)、「コロナの影響」(56人)の順で、前回までの回答と違って今回はコロナの影響を受けて暮らしが悪化したとの回答者も50人以上みられた。

これを、年代別で見るとは、20歳代、30歳代など若い世代において「良くなった」・「どちらとえば良くなった」などの好転派が平均値より高く、高齢世代になるに従い悪化傾向の回答が多くなっている。

図表 2-2-8

単位：人

暮らし向きが良くなった理由 上位回答（複数回答含む）	回答数
収入が増えた	79
子どもが増えた（家族が増えた）	16
子どもへの出費が減った	10
生活が安定した	9

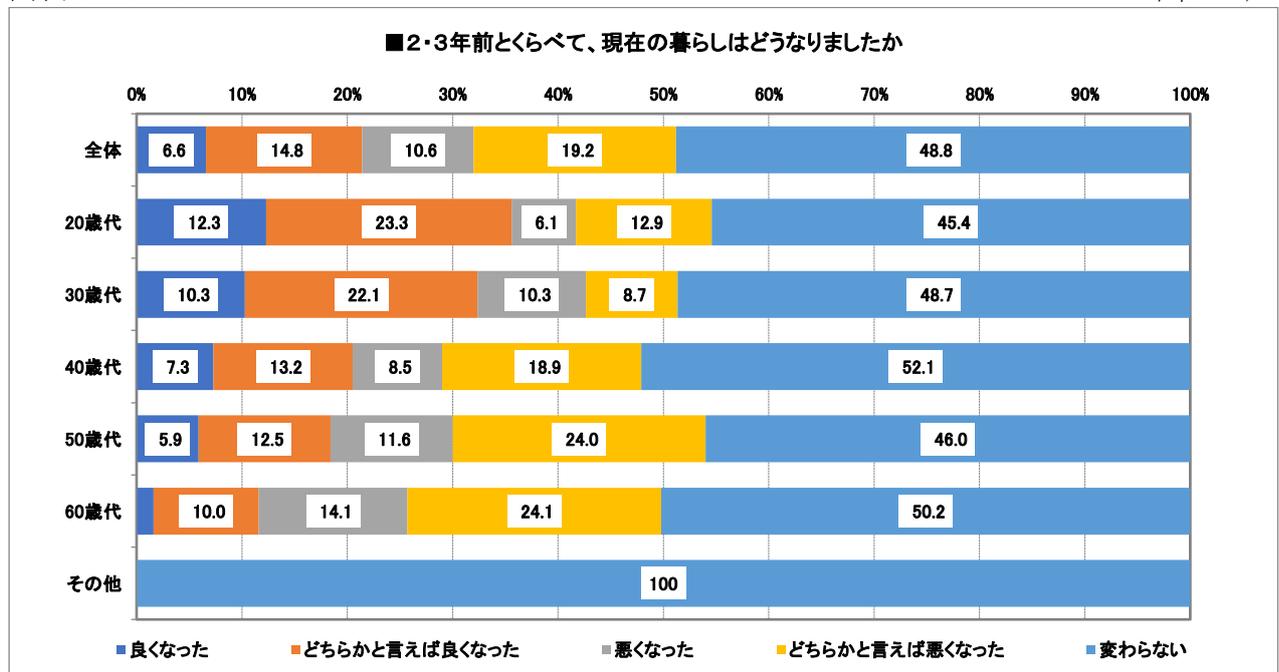
図表 2-2-9

単位：人

暮らし向きが悪くなった理由 上位回答（複数回答含む）	回答数
収入の減少・不安定	98
物価の上昇、価格高騰	60
コロナの影響	56
教育費負担	23

図表 2-2-10

単位：%



注。「その他」は不明回答である。また無回答分を除いている

### (3) 現在関心を持っている事（複数回答）

「健康」が40.0%を占めて最も多く、以下「感染症対策」（37.1%）、「年金」（35.2%）、「収入または売上」（26.8%）が20%を超えている。

「感染症対策」は新型コロナ感染関連のために今回初めての回答項目であるが、全体の1/3強を占めた。

なお、今回初めての回答項目である「感染症対策」・「テレワーク」を除く項目において、前回調査と比較すると「収入または売上」（6.3ポイント増）、「自然環境（温暖化等）」（4.0ポイント増）、「教育」（1.0ポイント増）が増加し、コロナ禍での収入・売上関連への影響や、世界的な豪雨など自然災害と関連付けられている地球温暖化等に強い関心があることが判明した。

一方で、「年金」（8.8ポイント減）、「介護」（6.5ポイント減）、「雇用問題」（5.7ポイント減）、「食の安全」（4.6ポイント減）、「医療」（3.8ポイ

ント減)、「税金(消費税等)」(3.5ポイント減)などは前回調査より減少しており、回答者属性において主婦等の回答者比率が前回より低下した影響とみられる現象が現れた結果となった。

年代別では、50～60歳代は「年金」、「健康」、「介護」が全体の平均値より高く、20～30歳代は「収入または売上」、「税金(消費税等)」等が、また30～40歳代は「教育」などがそれぞれ平均より高い傾向がみられた。

男女別では、男性は「年金」、「収入または売上」、「税金」などの回答が平均値より高く、女性は「教育」、「介護」、「食の安全」、「健康」、「感染症対策」などの項目について平均を上回っている。

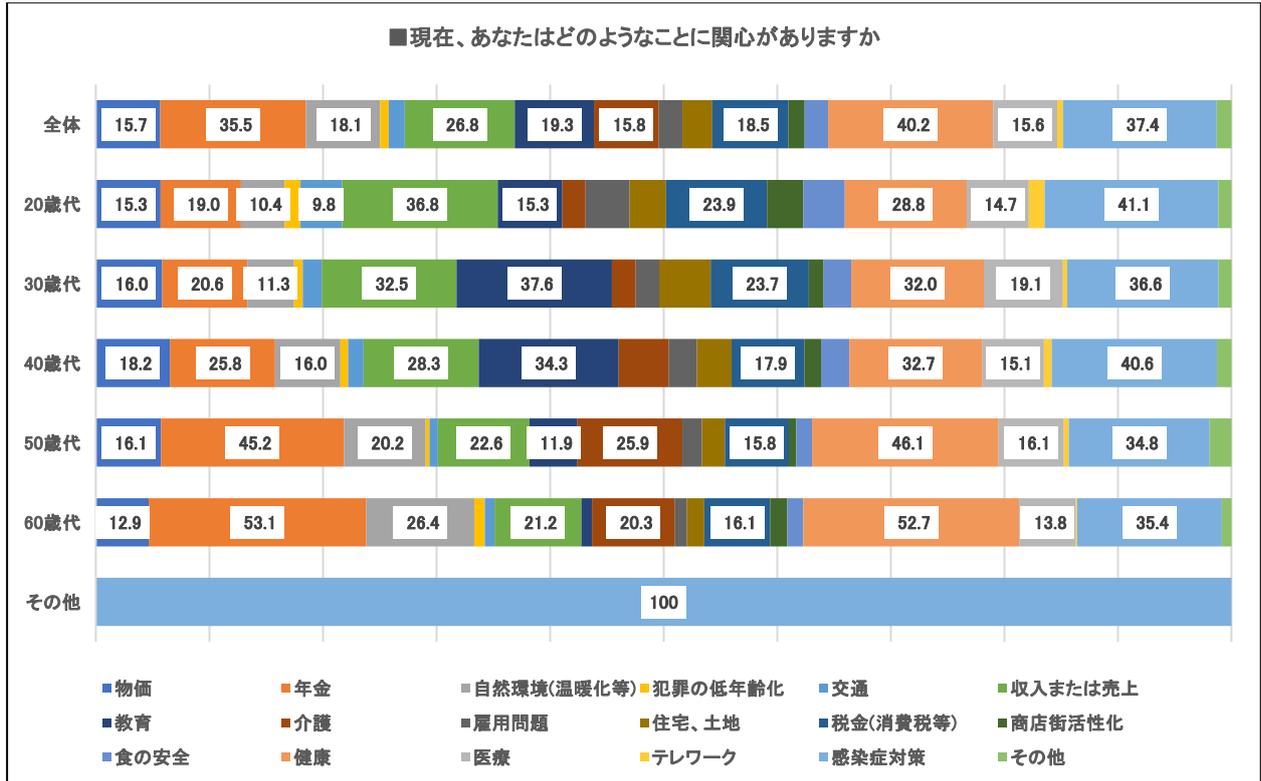
図表 2-2-11

単位：人、%

関心を持っていること (複数回答)	今回(R3年)調査		前回(H29年)調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
物価	208	15.6	269	17.8
年金	470	35.2	664	44.0
自然環境(温暖化等)	241	18.1	213	14.1
犯罪の低年齢化	28	2.1	53	3.5
交通	51	3.8	83	5.5
収入または売上	357	26.8	309	20.5
教育	255	19.1	273	18.1
介護	209	15.7	335	22.2
雇用問題	75	5.6	170	11.3
住宅、土地	100	7.5	128	8.5
税金(消費税等)	248	18.6	333	22.1
商店街活性化	53	4.0	77	5.1
食の安全	76	5.7	155	10.3
健康	533	40.0	622	41.2
医療	207	15.5	292	19.3
テレワーク(R3年のみ)	19	1.4		
感染症対策(R3年のみ)	495	37.1		
その他	47	3.5	58	3.8
無回答	7	0.5	27	1.8
合計	1,334	100.0	1,510	100.0

図表 2-2-12

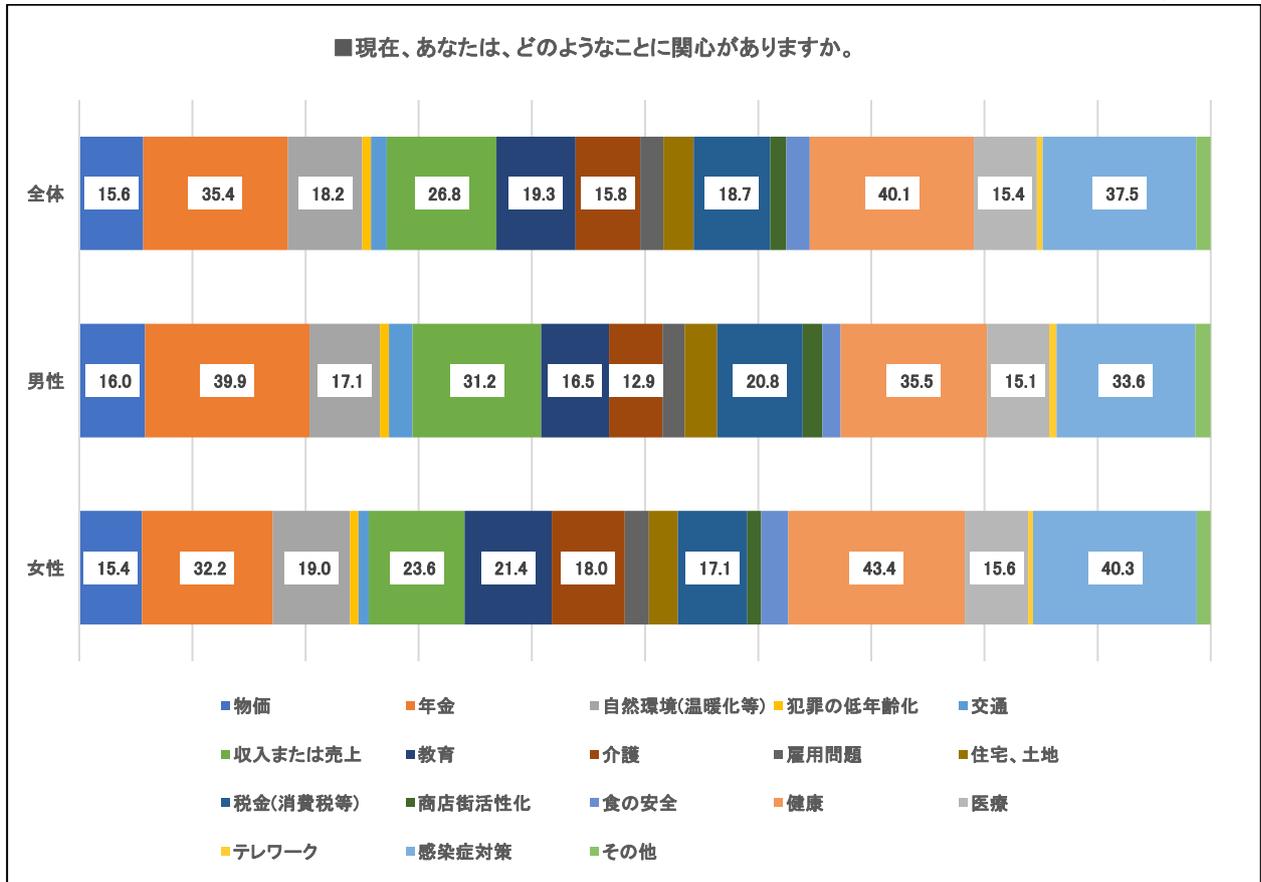
単位：％



注. 「その他」は不明回答である。また無回答分を除いている

図表 2-2-13

単位：％



注. 無回答分を除いている

#### (4) 現在、興味があること(複数回答)

現在興味を持っていることは、「旅行(国内/海外)」(30.8%)、「飲食」(29.5%)、「ショッピング(通販含む)」(22.6%)が20%以上の回答率で、以下「貯金」(19.2%)、「子供の教育」(18.2%)、「読書、音楽鑑賞」(17.5%)、「友人、知人との交流」(17.0%)、「スポーツ全般」(16.1%)の順位となっている。(その他回答は「特になし」14人、「孫」7人など)

前回調査より上昇した項目としては、「アウトドア(キャンプ等)」(6.6ポイント増)、「ショッピング(通販含む)」(4.4ポイント増)、「ゲーム全般」(3.7ポイント増)等で、反対に低下した項目は、「友人、知人との交流」(11.1ポイント減)、「習い事」(2.2ポイント減)、「旅行」(2.0ポイント減)などであった。

この結果としては、やはり新型コロナウイルス感染症予防対策として、友人・知人との交流や旅行などを避けて、アウトドア、通販、室内でのゲームなどへの関心の高さがうかがわれる。

これを年代別で見ると、全体の平均値より高い項目として、20歳代は「ゲーム全般」、「友人・知人との交流」、「ショッピング」など、30歳代は「飲食」、「貯金」、「子供の教育」等、また40歳代は「アウトドア」、「子供の教育」などで、50歳代は「パソコン、携帯電話」、「日曜大工(DIY等)」、60歳代は「旅行」、「読書、音楽鑑賞」、「ガーデニング」などをあげることができ、各年代の特徴が表れている。

男女別では、男性は「ゲーム全般」、「パソコン、携帯」、「スポーツ」、「アウトドア」、「娯楽・ギャンブル」などの回答比率が平均を上回り、女性は「友人、知人との交流」、「ショッピング」、「読書、音楽鑑賞」、「インテリア」、「子供の教育」等が高い結果となっている。

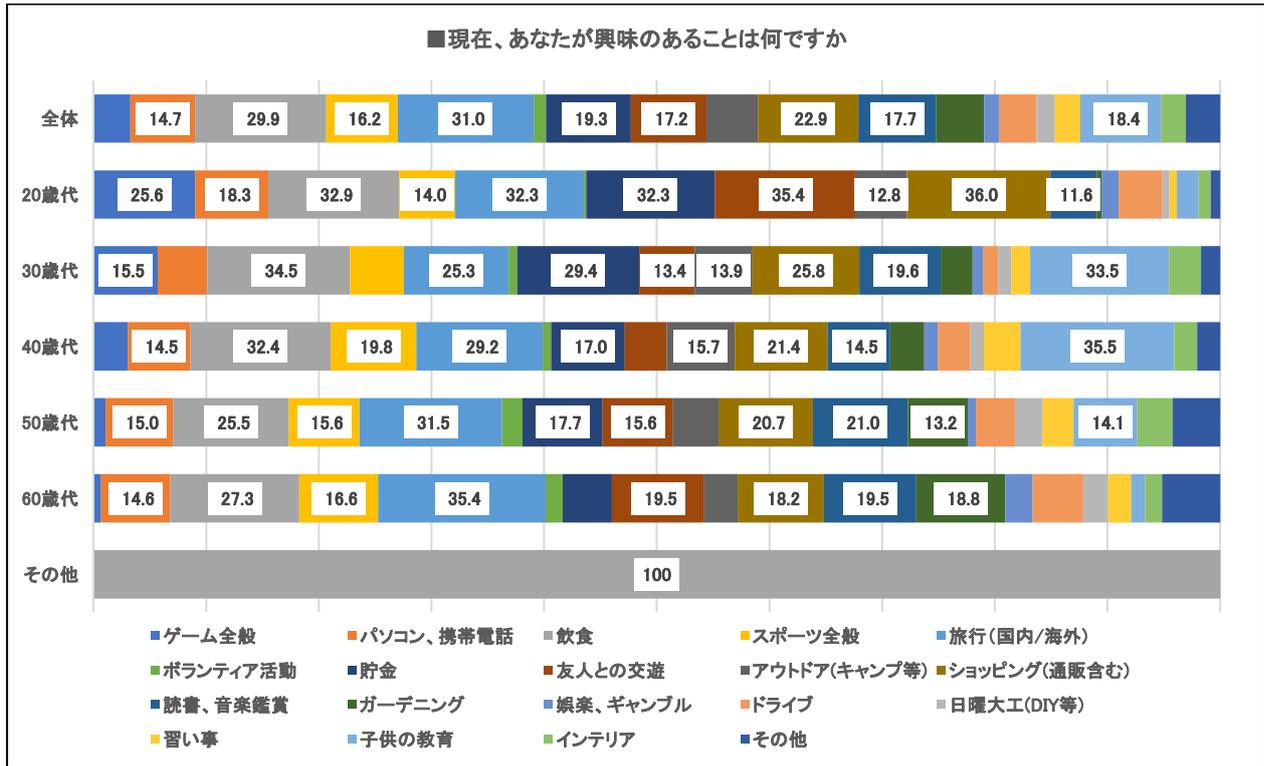
図表 2-2-14

単位：人、%

現在興味のあること (複数回答)	今回(R3年)調査		前回(H29年)調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
ゲーム全般	111	8.3	69	4.6
パソコン、携帯電話	194	14.5	231	15.3
飲食	394	29.5	449	29.7
スポーツ全般	215	16.1	247	16.4
旅行(国内/海外)	411	30.8	495	32.8
ボランティア活動	37	2.8	67	4.4
貯金	256	19.2	249	16.5
友人、知人との交流	227	17.0	425	28.1
アウトドア(キャンプ等)	156	11.7	77	5.1
ショッピング(通販含む)	302	22.6	275	18.2
読書、音楽鑑賞	233	17.5	283	18.7
ガーデニング	144	10.8	152	10.1
娯楽・ギャンブル	46	3.4	23	1.5
ドライブ	111	8.3	113	7.5
日曜大工(DIY等)	55	4.1	68	4.5
習い事	77	5.8	121	8.0
子供の教育	243	18.2	276	18.3
インテリア(R3年のみ)	74	5.5		
その他	105	7.9	122	8.1
無回答	12	0.9	44	2.9
合計	1,334	100.0	1,510	100.0

図表 2-2-15

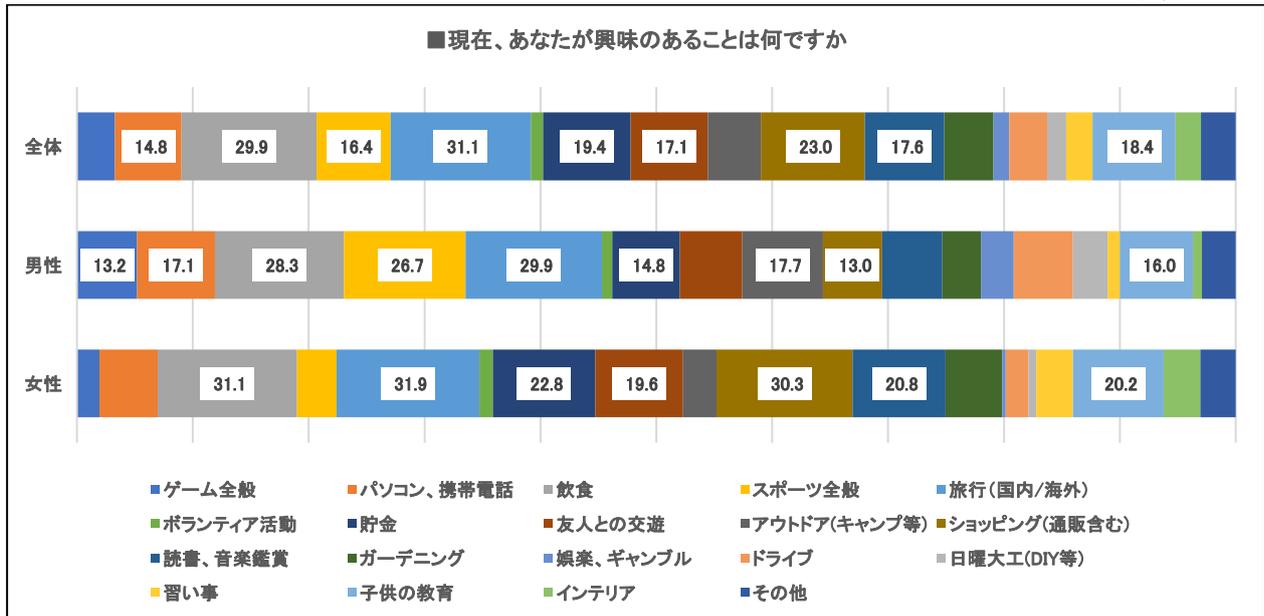
単位：%



注. 「その他」は不明回答である。また無回答分を除いている

図表 2-2-16

単位：%



注. 無回答分を除いている

(5) 現在欲しいと思っているもの(複数回答)

現在欲しい商品としては、「自動車」(28.2%)、「衣料品」(26.0%)、「電化製品」(25.9%)が4人に1人以上を占め、以下「家(または別荘)」(18.4%)、「その他」(15.5%)、「台所用家電」(14.2%)、「パソコン」(12.7%)なども10%以上の回答率を占めている。(その他回答は、「特になし」52人、「家のリフォーム」7人、「お金」6人など)

なお、前回調査と比較すると、「その他」(5.8ポイント増)、「家具類」・「携帯電話」(各2.3ポイント増)、「台所用家電」(2.1ポイント増)が増加し、反対に「バッグ、靴」(2.8ポイント減)、「衣料品」(2.5ポイント減)などは減少している。

年代別では、「衣料品」や「バッグ、靴」、「家(または別荘)」などは若い年代の回答が多く、「パソコン」、「携帯電話」、は40~50歳代、60歳代は「自動車」、「健康器具」などが全体の平均を上回っており、男女別では、男性は「自動車」、「パソコン」など、女性は「衣料品」、「バッグ、靴」、「家具類」等で平均より高い回答比率を示している。

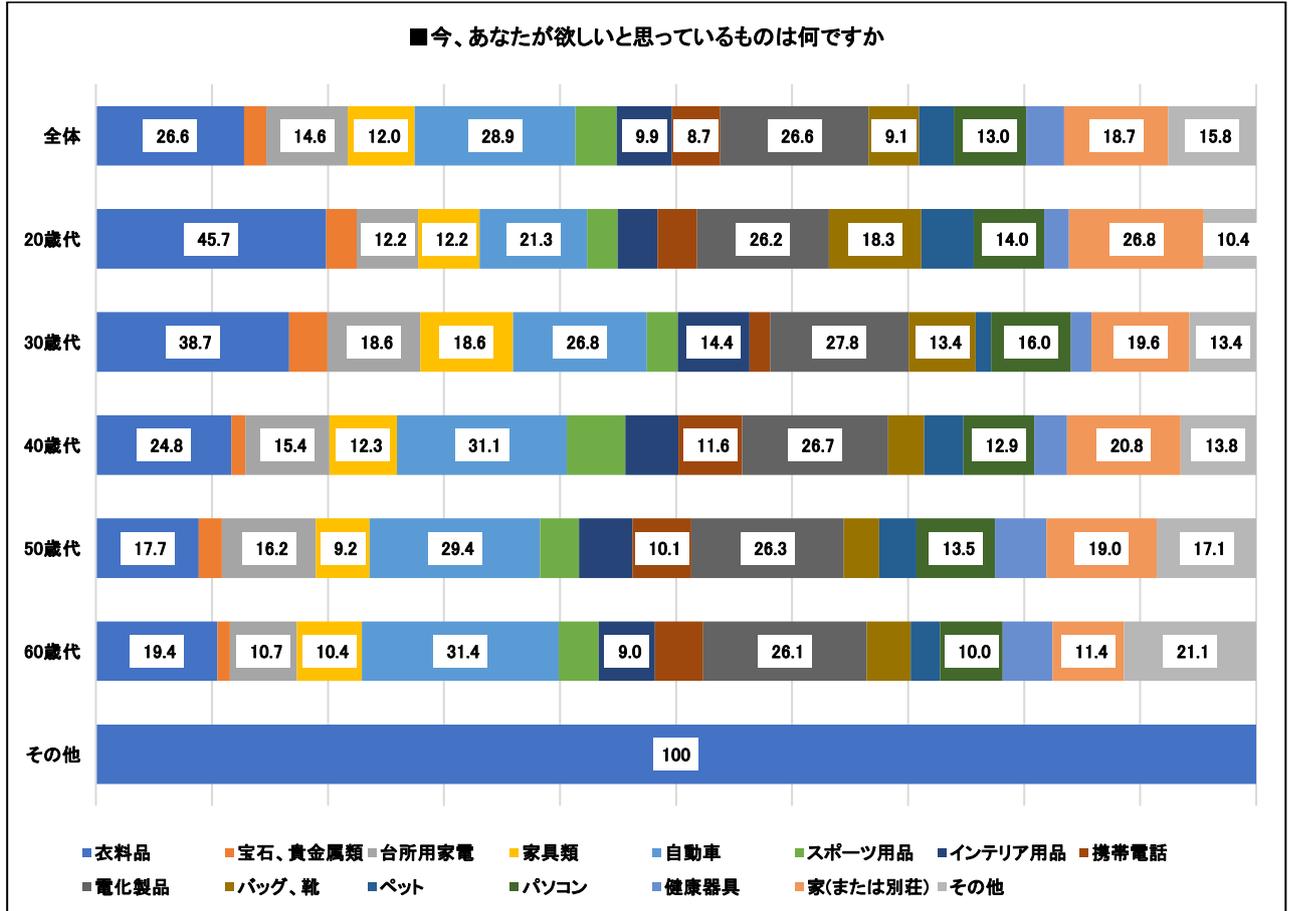
図表 2-2-17

単位：人、%

現在欲しいもの (複数回答)	今回 (R3年) 調査		前回 (H29年) 調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
衣料品	347	26.0	431	28.5
宝石、貴金属類	53	4.0	38	2.5
台所用家電	190	14.2	183	12.1
家具類	157	11.8	144	9.5
自動車	376	28.2	408	27.0
スポーツ用品	98	7.3	102	6.8
インテリア用品	129	9.7	150	9.9
携帯電話	114	8.5	94	6.2
電化製品	346	25.9	371	24.6
バッグ、靴	118	8.8	175	11.6
ペット	81	6.1	63	4.2
パソコン	169	12.7	137	9.1
健康器具	88	6.6	75	5.0
家(または別荘)	245	18.4	281	18.6
その他	207	15.5	146	9.7
無回答	28	2.1	168	11.1
合計	1,334	100.0	1,510	100.0

図表 2-2-18

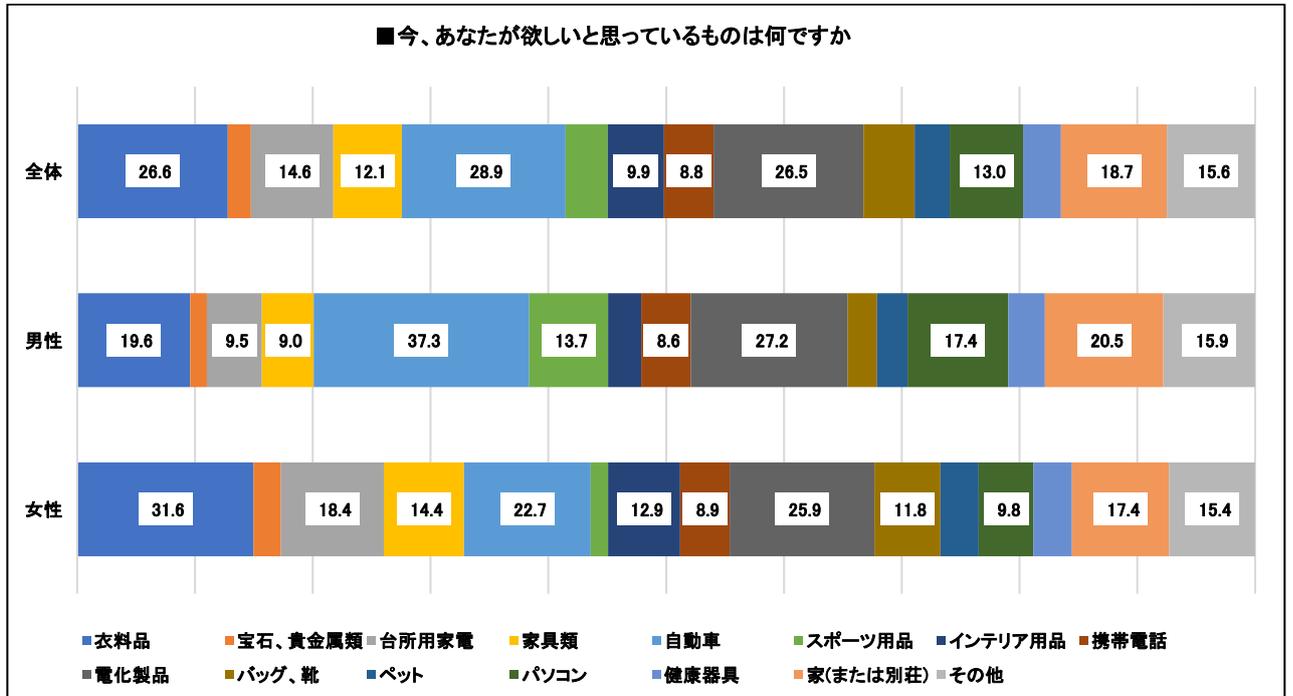
単位：%



注. 「その他」は不明回答である。また無回答分を除いている

図表 2-2-19

単位：%



注. 無回答分を除いている

## (6) 欲しいものを買うために貯金をしているか

前記質問に関して「欲しいもの」を買うために貯金をしている人の割合は、「特にしていない」が52.5%と半分以上を占め、「している」と回答した人は40.3%であった。

なお、前回調査との比較においては、「している」は6.9ポイント増加したが、「特にしていない」は前回の55.9%から3.4ポイント減少した。

また年代別では、比較的若い層において貯金を「している」との回答が多く、高年代になるほど「特にしていない」割合が多くなっており、男女別では概ね同様な結果となった。

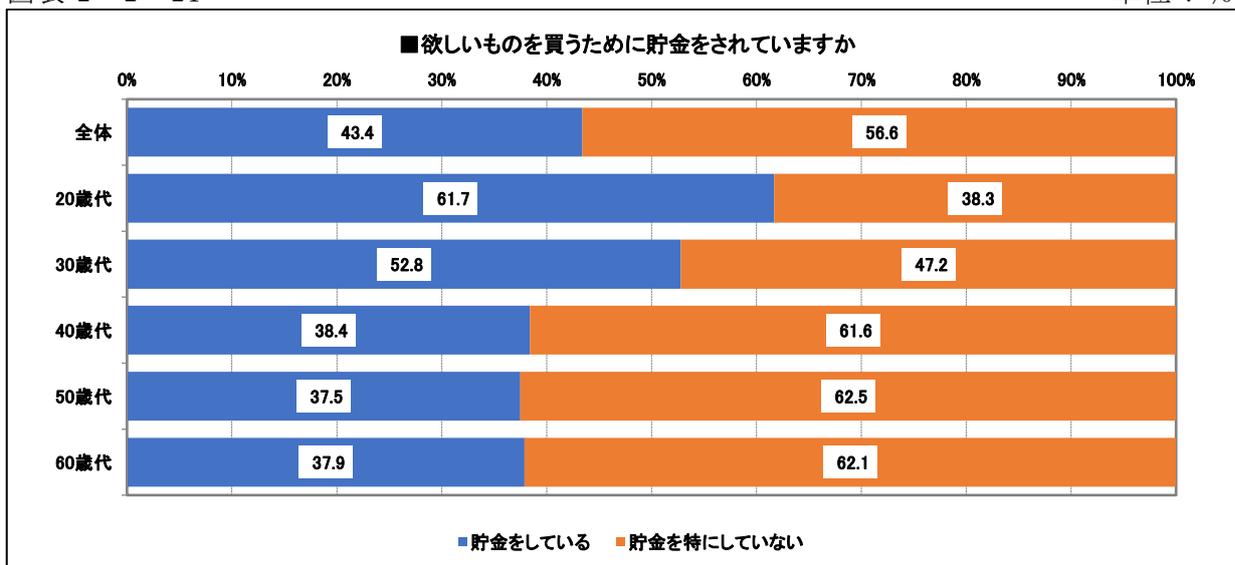
図表 2-2-20

単位：人、%

買うための貯金は	今回（R3年）調査		前回（H29年）調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
している	538	40.3	505	33.4
特にしていない	700	52.5	844	55.9
無回答	96	7.2	161	10.7
合計	1,334	100.0	1,510	100.0

図表 2-2-21

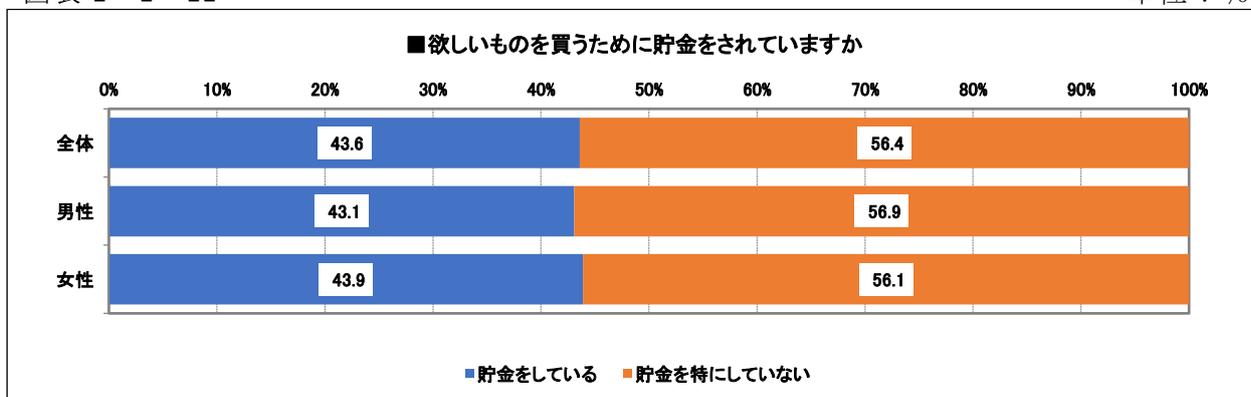
単位：%



注. 無回答分を除いている

図表 2-2-22

単位：%



注. 無回答分を除いている

### (7) 余暇の過ごし方について（複数回答）

余暇の過ごし方については、今回初めての回答カテゴリである「家でゆっくり過ごす」が43.3%と最も多くてトップ回答となり、2番目の「家事（掃除等）」（29.2%）を大きく上回った。そのほかの上位としては、「ショッピング」（20.5%）、「一家団らん」（19.6%）、「ごろ寝」（15.1%）、「読書・音楽鑑賞」（15.0%）などの順となっている。

また、今回初めての回答項目を除いた前回調査との比較では、「アウトドア」（1.6ポイント増）と「料理」（0.8ポイント増）が多少増加したが、他項目については総じて減少傾向がみられた。（その他回答には、「家庭菜園・園芸・手芸・登山など趣味」20人、「介護関係」7人、「余暇がない」4人など）

図表 2-2-23

単位：人、%

余暇の過ごし方 （複数回答）	今回（R3年）調査		前回（H29年）調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
ショッピング	274	20.5	385	25.5
スポーツ	192	14.4	235	15.6
読書、音楽鑑賞	200	15.0	253	16.8
パソコン	58	4.3	107	7.1
日曜大工（DIY等）	38	2.8	49	3.2
ガーデニング	111	8.3	127	8.4
習い事	40	3.0	75	5.0
家事（掃除等）	389	29.2	455	30.1
地域活動	21	1.6	49	3.2
友人との交遊	163	12.2	333	22.1
アウトドア（キャンプ等）	70	5.2	55	3.6
ごろ寝	201	15.1	324	21.5
一家団らん	262	19.6	338	22.4
旅行	78	5.8	228	15.1
飲食（H26は「食べ歩き」）	119	8.9	187	12.4
料理	104	7.8	105	7.0
ドライブ	105	7.9	147	9.7
映画、演劇鑑賞	90	6.7	138	9.1
娯楽、ギャンブル	29	2.2	63	4.2
ゲーム（R3年のみ）	100	7.5		
オンラインを利用した交流（R3年のみ）	19	1.4		
家でゆっくり過ごす（R3年のみ）	577	43.3		
動画配信サービスを利用する（R3年のみ）	141	10.6		
その他	86	6.4	132	8.7
無回答	9	0.7	32	2.1
合計	1,334	100.0	1,510	100.0

これを年代別でみると、「友人との交遊」や「ゲーム」、「動画配信サービスを利用する」等において若い年代の回答率が高く、「ガーデニング」、「家事（掃除）」、「読書、音楽鑑賞」、「家でゆっくり過ごす」などは比較的高齢になるほど回答率が多くなっている。

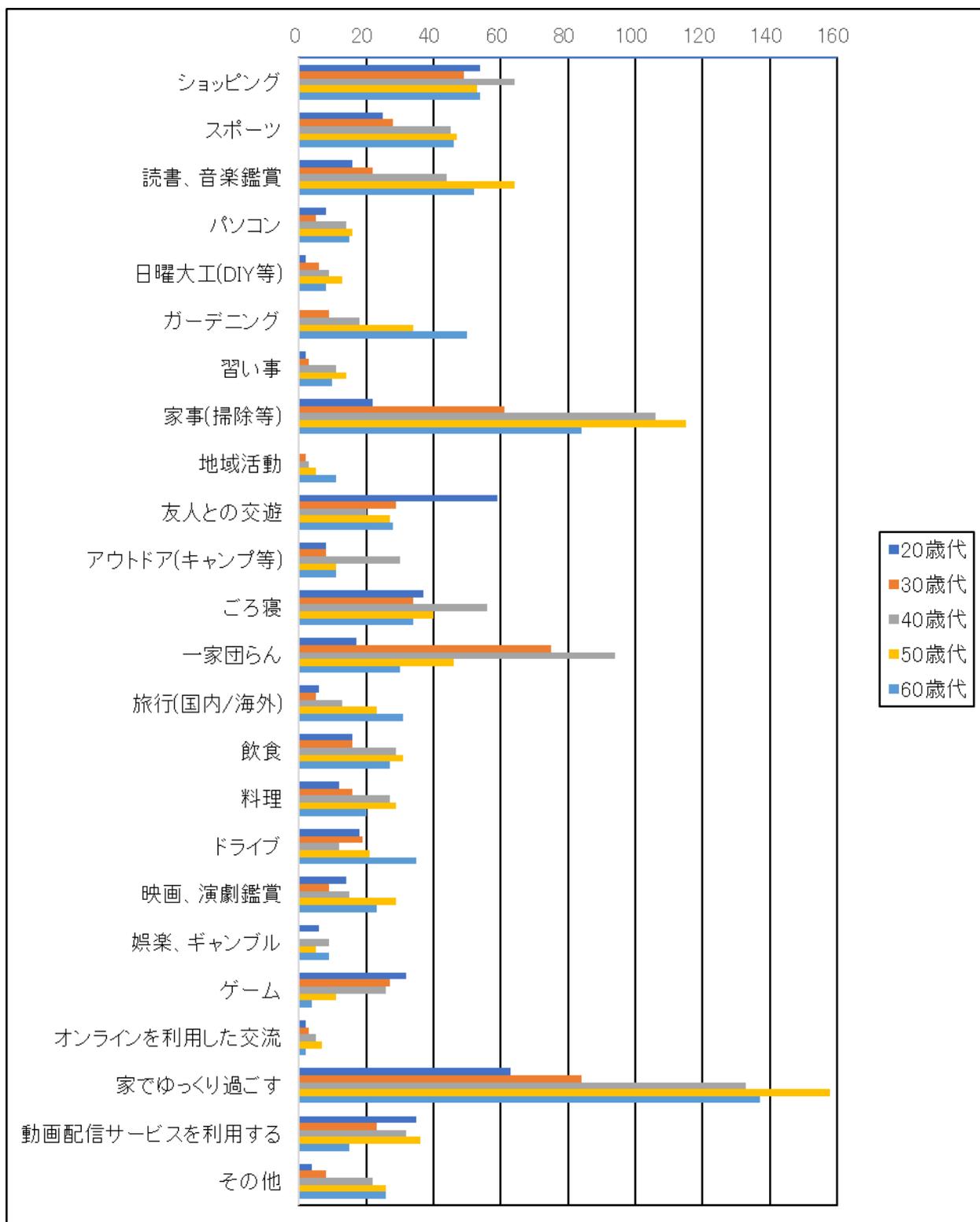
また、男女別では「スポーツ」や「パソコン」、「日曜大工（DIY等）」、「ドライブ」、「ゲーム」などにおいては男性の回答率が高く、「ショッピング」、「読書、音楽鑑賞」、「料理」、「家事（掃除）」、「家でゆっくり過ごす」

す」、「動画配信サービスを利用する」等の項目では女性の回答率が男性を上回っている。

■余暇の過ごし方（年代別）

図表 2-2-24

単位：人

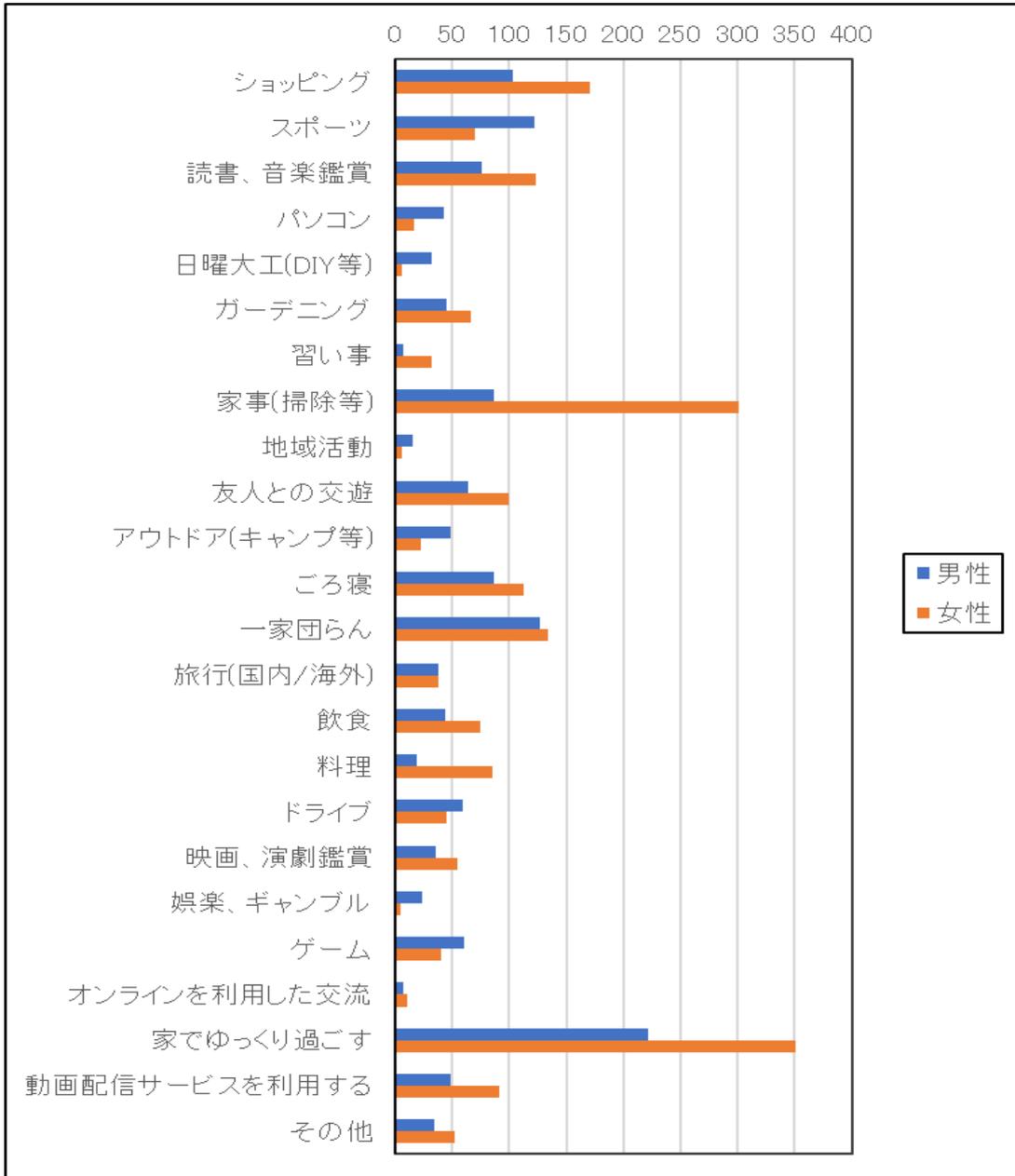


注. 「その他」は不明回答である。無回答分を除いている

■余暇の過ごし方（男女別）

図表 2-2-25

単位：人



注. 無回答分を除いている